

仙台陣屋かわら版

第六十五号

(平成二十二年七月号)

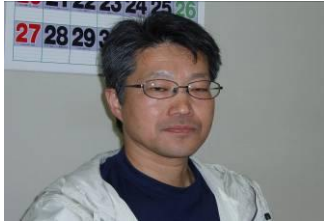
HP: <http://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/ka/jinya/> Mail: jinya@town.shiraoi.hokkaido.jp
〒059-0911 白老町陣屋町六八一 TEL&FAX 0144-85-2666 仙台藩白老元陣屋資料館発行

友の会に期待の新人、来たる！

渡辺一雄さんです

虎杖浜出身。「人の役に立つ仕事を」と考え、十八歳で消防署勤務となりました。今なお現役の四九歳。『つくしむ白老』、『朗読会』『ロポックル』、『白老町子ども会連合会』、『社会福祉協議会個人ボランティア』等の活動にも精力的に参加されています。現在は「子どもたちにも解り易く」をモットーに、解説の勉強に勤しんでいらっしやいます。熱意溢れる新たなメンバーに負けないよう、友の会も資料館も盛り上がり上げていきたいものです。

陣屋の歴史に興味がある方、活躍の場を求めている方、つしやる方、友の会では、常時新メンバーを募集しています。皆さんの経験は、色々な形で役立ちます！。お気軽にお声掛け下さい。



〈現役の消防士さんです！！〉

日胆地区の学芸員が大集會 白老町で総会と研修会を開催

日高・胆振管内の学芸員による総会と研修会が、(財)アイヌ民族博物館で行われました。多忙な時期にもかかわらず、二五名の職員が一堂に介し、博物館活動に関する活発な意見を交換しました。

会場となった同博物館では、各専門分野の職員が、アイヌ民族の文化研究やその発信のため、日々精力を注いでいます。元同館学芸員で、現在は北大准教授の北原次郎太氏は、道内各地のアイヌ民族の若者からなるグループ「ニカオブ（木の実）」で取り組む伝承復元作業の風景や発表の映像を資料に、口承文芸を復元する事の難しさを述べられました。現在、道内各地で活発に行われている伝承活動ですが、一昔前のお年寄りのような発声・発音・節回しが出来る人は非常に限られています。若者たちは、ときに無音の記録映像と文字化された文献とを突き合わせながら作業に取り組み、膨大な時間と努力を費やし、自民族の文化伝承を行っているのです。また、若者が自ら学ぶ

ために、資料をデータ化し、接しやすくする事が必要と述べられました。

続く講演は、今年から同館に勤務している朴炳宰(パク・ビョンゼ)氏が担当されました。朴さんは韓国出身。北見工大で植物学の博士号を取得され、今春から韓国からの観光客を対象とした解説業務などに従事しています。研修会では膨大な植物のデータを活用し、韓国の食卓情報などを交えながら、植物の食用例を中心に話されました。比較文化的な視点での講義は、新鮮味も手伝って非常に興味深い内容でした。

翌日はポロトの森での野外演習。現在ウトナイ湖ネイチャーセンターに勤務され、同館では指導者育成事業の講師も担われている安田千夏氏に、緑溢れるポロトの森を案内していただきました。緑に覆われた自然休養林内で、大人三人がかりでやっと抱えられる程の幹や、お互い複雑に絡み合ったヤドリギなど、原生林が織り成す珍しい光景に圧倒され、二時間の講習は瞬く間に終わってしまいました。



〈復元行程を説明する北原氏(上)。幹の太さを、実際に手を繋いで確認する学芸員(下)〉



白老地域文化大学の活動から

五月二二日(土)萩の里自然公園において、第三七回白老地域文化大学講座「里山 萩の里自然公園を歩く」を実施しました。参加者は二十名。講師には植物ボランティア サリカリア代表や同公園管理運営協議会事務局長を務める新岡幸一氏をお招きしました。

同公園では、『ふるさと創生事業』の一環として立案され、管理用道路、センターハウスの建設及び周辺整備、展望台の設置等の整備が行われてきました。また、国際姉妹都市ケネル市寄贈の丸太でセンターハウス(愛称「ケネルハウス」)が建設されるなど、異国情緒?溢れる場所でもあります。



〈麗らかな里山に残る炭釜を巡る〉

少し肌寒かったものの、いざ散策となれば寒さなんてなんのその。公園の現在に至るまでの経緯の他、「百年単位の森づくり」「人と自然の共生」「心豊かな人づくり」の三つを基本理念に基づき行ってきた事業や、公園内に生息する動植物等についてお話いただきました。他にも炭窯跡や山神様を祀っているご神木、オオウバユリやシラネアオイの群生地など、魅力的な場所が目白押し。氏が現地の自然に魅せられ、「自然を大切に」という信念のもと、里山の保全・育成に携わって

いるのがわかるような気がします。

日本人の生活文化とは切っても切り離せない、人と里山との深い関わり。しかし、人が真心で整備する一方、心無い人により盗掘が繰り返されている実情に、参加者は驚きを隠せませんでした。

『地域文化大学叢書』の新刊が発行されました

白老地域文化大学から、新しい叢書刊行のお知らせです。過去に七回開催してきた春の「刀剣展」の講演記録から、平成二十・二十一・二十二年度の三年分を抜粋。鳥羽達一郎氏や堀井胤匠刀匠にも校正の協力を賜り、去る六月二二日をもって、目出度く発刊の運びとなりました。

それぞれのタイトルは、次のとおりです。

■しらおいの刀工 渡部安秀展 展示解説

■白老の刀工 渡部安秀について

■日本刀の美・刀装の技展 展示解説

■日本刀よもやま話

■日本刀の輝き〜短刀の魅力〜展 展示解説

「日本刀に纏(まつ)わる言葉・諺(ことわざ)」お求めの方は、陣屋資料館までお問合せください。一冊二百円で販売しております。また、白老町立図書館ならびに北海道立図書館にも寄贈してありますので、こちらでも閲覧いただけます。

史跡の草摘みを実施。これはエライ事だ!!

六月一九日(土)、久々の晴天・蒸し暑さの中、史跡内屋敷跡において、有志協力の下、草摘み作業を実施しました。資料館友の会・仙台陣屋史跡保存会を中心に十二名が生い茂る雑草と格闘!

午前中を丸々と使って奮闘した結果、えらく腰が痛くなりましたが、見事、

結束のパワーが遺憾なく発揮され、三番長屋跡に繁茂した雑草をきれいに取り除く事ができました。ご協力くださった皆様



〈赤松が見守る作業風景〉

には、心から感謝申し上げますとともに、読者の方々も、次回一緒にいかがでしょうか?。

いよいよ特別展が始まります

今年度の特別展は、会所や運上屋といった場所の風景や、そこで働く人々が記された絵画・文書資料を中心に展示します。題して「絵図が伝えた漁場の営み」展。七月二四日(土)開幕です。

江戸時代、蝦夷地を訪れた和人は、様々な目的と意図を以て、最果ての異郷の様子を、描き、記しました。そうした絵図等が担った情報伝達の性格に注目し、蝦夷地の様子が一般にどのような受容されていたのかを探ります。また漁場を用いられていた漁具なども、一部展示します。

恒例の講演会は、初日二四日の午後からで、開拓記念館学芸員 東俊佑氏を招き、近世蝦夷地の交易に関する基本的な知識をはじめとした最新の研究情勢などもお話いただけます。お楽しみに。

「仙台陣屋かわら版 第六十五号(平成二十二年七月号)」発行日:平成二十二年六月二十二日

発行所: 仙台藩白老元陣屋資料館 担当者: 平野・干場